



# JSHCT Letter No.81

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

一般社団法人日本造血細胞移植学会

January 2021

## 目次

第43回日本造血細胞移植学会総会のご案内	ii - iii
認定・専門医制度委員会からの報告とお知らせ	iv - v
看護部会企画	vi - vii
私の選んだ重要論文	viii
施設紹介「山形大学医学部附属病院 第三内科(血液内科)」	ix
会員の声「金沢大学附属病院 血液内科 石山 謙 先生」	x
各種委員会からのお知らせ	xi

### ● 本学会会員情報へのご登録内容変更について

ご勤務先の変更等に伴いご住所、メールアドレス等本学会会員情報へのご登録内容に変更がございましたら、Eメール、FAX等にてお早目に事務局までお知らせください。

[→学会HP「登録情報の変更・休会・退会について」](#)

### ● ご登録いただいているご住所について

本学会では、会員の皆様に対する重要書類、学会総会抄録号などをご登録頂いている住所にお送りしています。宛先不明で返送されてしまった場合、それ以上の対応ができなくなるおそれがありますので、ご自身でのご対応をよろしくお願い申し上げます。

### ● ご登録いただいているメールアドレスについて

本学会では、皆様に対する各種ご案内の多くをEメールにて配信しておりますが、昨今、アドレス変更の届出漏れが多く、メールが不達となる会員の方も多数みられます。一定期間、事務局からのメールが届いていない方は、一度、事務局 ([jshct\\_office@jshct.com](mailto:jshct_office@jshct.com)) までお問合せくださいますようお願い申し上げます。

【JSHCT事務局より】

## 第43回日本造血細胞移植学会総会のご案内

令和3年3月5日(金)～7日(日)

会場：東京国際フォーラム

総会会長 田中 淳司

(東京女子医科大学血液内科学講座 教授・講座主任)

第43回日本造血細胞移植学会総会を東京国際フォーラムにおきまして2021年3月4日(木)より開催させて頂く予定となっておりましたが、新型コロナウイルスの影響により主にWebを利用したハイブリット型開催とさせていただきます。それに伴いまして、会期も皆さんが参加しやすいように土曜日曜日を中心とする方針として2021年3月5日(金)・6日(土)・7日(日)に開催させていただきます。

新型コロナウイルス流行による厳しい医療環境にも関わらず一般演題には371題もの登録を頂きました。一般演題の口演発表は音声付きスライドで、ポスター発表は音声なしのスライドでオンデマンド配信致します。特別演題はリアルタイム配信プラスオンデマンド配信とし会長シンポジウムは「Cellular therapies to overcome intractable hematological malignancies-New insight in NK cells」と題し、細胞療法とくに最近注目を集めているNK細胞療法について第一線の先生に講演して頂きます。特別講演はシアトルのRainer Storb教授に「History and Future of Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation」と題して造血細胞移植の総括をして頂きます。また九州大学前田高宏教授には血液疾患領域における遺伝子編集に関する講演を頂きます。シンポジウムは4セッションで「Recent progress in conditionings for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation」、「GVHD治療の現状と将来」、「CAR-T療法の現状と将来」、「臍帯血移植の現状と将来」そしてワークショップも4セッションで「骨髄バンクの現状と課題」「臍帯血バンクの現状と課題」「骨髄腫治療における細胞療法の位置づけ」「小児移植医療の現状と課題」、また教育講演は10題と特別教育講演 1題(海外)、看護教育講演2題、JSHCT-KSBMT Joint Symposiumとして「高齢者に対する移植・細胞療法」、特別企画として「新型コロナウイルス流行期における造血細胞移植領域の危機管理」とチーム医療に絡めて「新型コロナウイルス流行期におけるチーム医療の実践」、また看護シンポジウムでも新型コロナウイルスと移植看護などについて議論して頂きたいと思えます。さらに看護ブラッシュアップ研修、HCTCワークショップ、造血幹細胞移植推進事業フォーラムなども企画しております。また特別講演、シンポジウム、教育講演、プレナリーセッション、造血幹細胞移植推進事業フォーラムには認定医更新のための認定単位を付与致します。認定医取得のための教育セミナーはオンデマンド配信致します。また協賛セミナーも原則ライブ配信としてあわせて40セッションを企画しております。

血液疾患に対する造血細胞移植、CAR-T, CAR-NKを始めとする細胞療法、新型コロナウイルスなどについて最先端の話題をふんだんに盛り込んでありますので、多職種間で多く最新情報を共有したいと思えます。

今はまさに新型コロナの時代であり多くの医療従事者がその対応に全力を尽くしています

が、血液疾患の治療、造血細胞移植などの通常医療もおろそかすることはできません。まさに縦の糸は患者さんの生きる希望、横の糸はドナーさんの善意であり、その両者を取りもつのが骨髄バンクや臍帯血バンクで、その絆を実際の医療の中で結実させるのが造血細胞移植医療であることに変わりはありません。各方面の医療従事者と協働しドナーさんと患者さんとの架け橋となり、血縁者間移植と共に再生への絆を確実にしていくことこそが我々に与えられた使命であり天命であると思います。

新型コロナウイルスによる影響で第43回日本造血細胞移植学会総会は今まで経験したことのないWeb中心のハイブリッド開催となりますが、その分今までより斬新で実り多い学会になるように準備を進めて参ります。またリアルタイム配信の他にオンデマンド配信は3月末まで視聴が可能であるようにする予定です。残念ながら懇親会などの余興は行うことができませんが、是非とも多くの皆様をご参加、ご視聴して下さいますようお願い申し上げます。

第43回

**日本造血細胞移植学会総会**  
Annual Meeting of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

**2021.3.5(Fri) - 7(Sun)**  
オンデマンド配信3月末まで(予定)

東京国際フォーラム 東京都千代田区丸の内3-5-1  
会長 田中 淳司 東京女子医科大学 血液内科学講座 教授・講座主任

〔運営事務局〕  
株式会社JTBコミュニケーションデザイン ミーティング&コンベンション事業部  
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F  
TEL: 06-4964-8869 FAX: 06-4964-8804  
E-mail: jshct2021@jtbcom.co.jp  
https://convention.jtbcom.co.jp/jshct2021/

再生への絆

JSHCT

## 認定・専門医制度委員会からの報告とお知らせ

認定・専門医制度委員会委員長 田中 淳司

### ■ 第43回学術総会における認定医企画について

#### 1) 認定医申請のための教育セミナー

本年の教育セミナーは、WEBによるオンデマンド配信(公開期間中、受講者が自由にWEBにアクセスして閲覧する形式)での開講を予定しております。

【オンデマンド配信期間】3月中旬～3月下旬(予定)

※聴講には第43回学術総会への参加登録が必要となります

【プログラム】例年の通り、以下の5分野10単位分のセミナー開講を予定しています。

分野	細目
(A) 同種造血幹細胞移植の適応とドナーの選択	成人
	小児
(B) 移植後の拒絶と移植片対宿主病	移植片の拒絶・生着不全とその対策
	GVHDの診断と治療
(C) 拒絶・移植片対宿主病以外の移植後合併症	感染性合併症
	非感染性合併症
(D) 骨髄・末梢血幹細胞の採取と処理、ドナーの安全性と管理	骨髄
	末梢血
(E) 移植前処置の選択	成人
	小児

#### 【受講方法・単位申請方法】

- 事前の受講申請は不要で、公開期間中、自由に聴講いただけます。ただし、第43回学術総会への参加登録は必要です。
- 単位申請については、聴講後、受講料を指定口座にご納入いただいた上で、申請フォームによりご申請いただく方法を予定しております。詳細は決定次第、学会HPでご案内いたします。

#### 2) 認定医更新セミナー

本年の更新セミナーは、WEBによるLIVE配信での開講を予定しております。過年度を踏襲し、下表の対象講演に対して更新単位を付与する予定です。

対象講演	付与単位	開催日時
造血幹細胞移植推進事業フォーラム	1単位	3月5日(金) 16:05～17:05
シンポジウム1	2単位	3月6日(土) 8:00～10:00
教育講演1	1単位	3月6日(土) 8:00～8:30
教育講演2	1単位	3月6日(土) 8:50～9:20
教育講演3	1単位	3月6日(土) 9:40～10:10

特別講演1	1単位	3月6日(土)	10:05～10:55
教育講演4	1単位	3月6日(土)	10:30～11:00
プレナリーセッション	1単位	3月6日(土)	13:40～14:25
会長シンポジウム	2単位	3月6日(土)	14:30～16:30
シンポジウム2	2単位	3月6日(土)	16:30～18:00
教育講演5	1単位	3月7日(日)	8:00～8:30
シンポジウム3	2単位	3月7日(日)	8:00～9:30
教育講演6	1単位	3月7日(日)	8:50～9:20
教育講演7	1単位	3月7日(日)	9:40～10:10
特別講演2	1単位	3月7日(日)	9:40～10:30
教育講演8	1単位	3月7日(日)	10:30～11:00
教育講演9	1単位	3月7日(日)	12:45～13:15
教育講演10	1単位	3月7日(日)	13:35～14:05
教育講演11	1単位	3月7日(日)	14:25～14:55
シンポジウム4	2単位	3月7日(日)	15:50～17:20

### 【留意事項】

- 同時帯に並行して開催されている更新セミナーから、重複して単位を取得することはできません。
- 更新セミナーは、開始から終了まで通して聴講した場合のみ単位が付与されます。
- 単位取得のための申請等は不要です。(アクセスログより事務局で処理いたします)。

## ■ 2021年度の認定医更新手続きについて

2021年度の認定医の資格更新手続きを、以下の対象・スケジュールにて予定しています。

### <2021年度の更新対象者>

認定期間が「2021年3月31日」までの方(認定医番号(6桁)の上2桁が「27」の方)

※認定期間、認定医番号については認定証をご確認ください。

### <認定医更新手続きスケジュール>

2月上旬：更新手続きのご案内(HPお知らせおよび対象者にメール)

3月上旬：申請受付開始(43回総会終了後)

3月下旬：申請受付終了

事務局で書類の不足の有無および単位数の確認等の事務処理

4月中旬：委員による書類審査

5月上旬：委員会メール審議

5月中旬：審査結果確定

6月上旬：認定証送付

## 看護部会企画

今回の看護部会企画では、以下の2つについてご報告とご連絡させていただきます。

- 2020APBMTでの看護師の発表について
- 第43回日本造血細胞移植学会総会「再生の絆」のご紹介

国際委員会／看護部委員会 山花 令子

## 2020APBMTでの看護師の発表について

2020年度のAPBMTはオンライン(10月9日～10月11日の3日間)で開催されました!

下記のような仮装の学会会場が表示され各ブースに参加でき、オープニングイベントでは、インド舞踊を鑑賞することができました。



招待講演で、国立がん研究センター中央病院の森文子さんが、ポスター発表で神戸大学医学部附属病院の土井久容さんをご参加されています。

事前準備として、講演では、一か月ぐらい前に学会事務局と一緒に動画撮影し、その動画を当日流し質疑応答のみリアルタイムで行い、ポスターでは2週間ぐらい前にポスターのファイル提出の連絡がありました。次年度も同様にオンライン開催だと思われるので是非ご参加ください。

今回のニューズレターでは、発表されたお二人に今回のご経験を共有してもらいました。

## ■ Supportive Care of HSCT Patient セッション：演題名「Psycho-social issues in HSCT patients」

発表者 森 文子

移植の準備段階から、前処置・輸注のケア、生着後や移植後早期の感染管理、GVHD、合併症、そして心理社会的支援やエンドオブライフケアなど、看護のセッションでは、様々なテ-

マが取り上げられ、アジア各国の演者の興味深い講演とディスカッションでした。参加したセッションでは、インドの演者が発表されたエンドオブライフケアにおける倫理的ジレンマについての討議が盛り上がりました。文化や風土の違いはあったとしても、エンドオブライフケアでの悩みや戸惑いは共感でき、多職種で目標を共有し、相互理解することは大切だと改めて感じました。異文化の中での共有や発見があるのも APBMT の面白さですね。

## ■ E-Posterセッション：演題名「The status and innovations of hematopoietic stem cell transplantation medical practitioners in the COVID-19 pandemic in Hyogo, Japan」

発表者 土井 久容

兵庫県近郊で造血幹細胞移植に携わる医療者に対して、COVID-19に対する現状と対策についてアンケート調査した結果を発表しました。

例年であれば、観光や食事、アジア各国の方々との直接的な情報交換など現地入りの楽しさもありますが、今回はオンライン開催ということや時差が少ないインド開催ということもあり、参加しやすく、ポスターセッションにおいては、興味のあるところがクリック一つで見ることができるという利点がありました。質疑応答は各ポスター横にメールが送れるシステムがあるのですが、うまく活用できる前にセッション時間が終了してしまい、これもまた思い出のひとつになりました。

## 第43回日本造血細胞移植学会総会「再生の絆」のご紹介

東京女子医大病院 大吉真貴子

第43回日本造血細胞移植学会総会が、2021年3月5日(金)～7日(日)の3日間、Web配信を中心としたハイブリッド型で開催させていただく事となりました。今回の会長は東京女子医科大学病院 血液内科部長 田中淳司先生です。現在、田中先生を中心に理事の方々をはじめ、学会事務局の皆様のご支援を受けながら、準備を進めております。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて今回はWeb開催となりましたが、ライブ配信を行いますので、是非ともオンラインで参加をしていただき、チャットで質問やご意見をお聞かせください。

今回の総会学会のテーマは「再生の絆」です。このテーマにはドナーさんと患者さんとの架け橋となって再生への絆を確かなものにしていくという思いが込められております。患者の生きる希望とドナーさんの善意を絡め合わせ、再生への絆を確かなものにしていくためには、多職種間でのチーム連携がとても重要となってきます。今回の看護セッションでは

「新型コロナウイルス流行期におけるチーム医療の実践」というテーマで、医療実践の実態を多職種で共有し、今後の課題や対策についての情報が得られる内容になっております。

看護シンポジウムでは新型コロナウイルスの感染拡大が深刻となる中、患者、家族への心のケアについての共有、また、長期化する新型コロナウイルス対応に疲弊するスタッフへの関わりについても情報を共有し討論していきたいと考えております。その他にもがんゲノム医療や予防接種、感染管理などの最新知識を得られるセッションを企画しました。今回、新型コロナウイルス感染症の脅威によりWeb開催となりましたが、現地に行かなくてもすべてのセッションに参加でき、しかも後日オンデマンドで視聴できるという特典を活かしていただきたいと思っております。皆様とWebを通して、意見交換や情報共有ができる事を楽しみにしております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

**私の選んだ重要論文**

Double unrelated umbilical cord blood versus HLA-haploidentical bone marrow transplantation (BMT CTN 1101)

Blood. 2020 Aug 31;blood.2020007535. doi: 10.1182/blood.2020007535.

同種造血幹細胞移植の移植源として臍帯血やHLA半合致血縁者(以下ハプロ移植)も標準的な移植源となっているが、この両者のいずれをより優先して選択すべきかという点に関しては定まった見解がないところである。今回「Blood」誌にBMT CTN 1101試験の結果が報告されたので、そちらを紹介する。

本研究では、2012年6月から2018年6月までに、18歳から70歳で化学療法感受性を有するリンパ腫もしくは寛解の急性白血病の症例368例が臍帯血移植(186例)とハプロ移植(182例)にランダムに割り付けられた。ミニ移植の前処置としては両群ともにフルダラビン、シクロフォスファミド、全身放射線照射が用いられた。GVHD予防は臍帯血移植ではシクロスポリンとMMFが用いられ、ハプロ移植では移植後シクロフォスファミド、タクロリムス、MMFが用いられた。主要評価項目である2年での無増悪生存率は臍帯血で35%(95% CI 28-42%)、ハプロ移植で41%(95% CI 34-48%、P=0.41)であった。元々予定されていた副次的評価項目に関しては2年での非再発死亡は臍帯血移植にて18%(95% CI 13-24%)、ハプロ移植にて11%(9% CI 6-16%、P=0.04)、2年での全生存率は臍帯血で46%(95% CI 38-53)、ハプロ移植で57%(95% CI 49-64%、P=0.04)であった。

本試験では主要評価項目では両群に有意な差は認めなかった。その為、いずれの移植源もミニ移植における移植源として妥当であるが、全生存率など副次的評価項目ではハプロ移植の方が優れる結果であった。

本試験は北米で行われた前処置強度の弱いセッティングでの比較ではあるが、ハプロ移植の方が全生存率でも優れる結果ではあった。今後欧米ではさらにハプロ移植が優先して選択されることとなるものと考えられる。ただ、本邦においては欧米と比して臍帯血移植の成績も良好なものも多く報告されており、本邦の移植法での比較検討を行うことが必要であると考えられる。

大阪国際がんセンター 血液内科 藤 重夫



## 施設紹介

## 山形大学医学部附属病院 第三内科（血液内科）

講師 東梅 友美

当院は山形県（人口約106万人、面積9325km<sup>2</sup>）の県庁所在地である山形市（人口約25万人）の南部、蔵王山の麓に位置しております。現在のスタッフは石澤賢一教授をはじめ医師11名（講師1、助教3、病院助教6）です。1992年に当院第一例目の同種移植を開始して以降、山形県内唯一の日本骨髄バンク及び臍帯血バンク移植認定病院、日本造血細胞移植学会移植認定施設（カテゴリー2）として、精力的に造血細胞移植を実施しております。特に、直近5年間における移植件数増加が顕著であり、2015年は同種・自家合わせて10件でしたが、2020年は39件と実に約400%の増加となりました。この急激な増加の背景には、医療スタッフの充実及び当科の認知度アップがあるものと思われまます。このような移植件数の増加に対応すべく病棟整備も進められ、現在では血液内科専用病床35床（うち無菌室9床）に拡大され、造血細胞移植を始めとした高度医療の他、各種治験・臨床研究も一般血液内科診療と並行して進めており、山形県内の血液疾患における最後の砦として、質の高い医療を県民に提供しております。移植件数の増加と比例して、成績も年々向上しており、2017～2019年の初回移植患者における1年生存率は約80%でありました。少子高齢化の先進県である当県では、移植患者の年齢も高いのですが、この成績を見るかぎり安全な造血細胞移植療法を提供しているのではないかと思います。

移植件数と成績の向上により、長期フォローアップの重要性も増していることから、昨年10月より東北地方では最後となる移植後長期フォローアップ外来を看護部のバックアップを得て開始することができました。移植に興味を持つ若い医師、看護師も増えていることから、将来は全国に誇る移植医療センターへと成長できるのではないかと楽しみにしております。

また、移植医療の進歩にはトランスレーショナルリサーチが重要であることから、新進気鋭な大学院生達が移植における重篤な合併症であるGVHDの病態解明と移植後再発の減少を目指した基礎研究を展開しており、世界に向け最新の研究成果を発信できるよう日々努力をしております。海外の移植センターでは基礎研究部門と臨床部門が効率良くワークしている施設が多いことから、当科でも今後移植領域に関する様々な研究を展開したいと考えております。移植免疫に興味のある国内の医師の方々におかれましては、当方での研究留学を歓迎しますので、是非御一報をいただければ幸いです。

今後とも当科を何卒よろしくお願ひ申し上げます。（写真は当科のスタッフ写真です。）



## 移植の適応を考える

金沢大学附属病院 血液内科 石山 謙

前回本稿を執筆された富山赤十字病院・黒川敏郎先生は、医局(金沢大学血液内科)の先輩に当たります。よくよく考えるとちょっと不思議なご縁でして、私が7年目に富山県立中央病院から金沢大学附属病院へ移動する時に書面上で申し送りをしたのがおそらく初めての接点です。これまで同じ職場で一緒に働かせていただいたことはなく、それどころか大学内でお会いしたこともないかも...なのですが、黒川先生は学会や講演会等でお会いする度に気さくに声をかけてくださり、私が至らない点をピンポイントで指摘してくださるなど、いつも助けていただいているという印象しかありません。本稿を私物化して大変申し訳ありませんが、この場を借りて先輩に感謝の意をお伝えするとともに、もう若くもない自分を離れたところからでもしっかりと見てくださっている、自分もそういう先輩にならなければならないと思う次第です。

移植の適応。最近では学生への教育や若い先生への指導としてエラそうに話をする機会もある一方で、自問することもいまだに少なからずあります。EBMが普及した現在も、ガイドラインですべてを決断することはできません(本稿をお読みの先生方に今更申し上げるのも失礼な話です、すみません)。比較的若く全身状態も保たれている、しかし移植をしても予後の改善が見込めないような予後絶対不良の染色体異常がある患者さんにどのように話をしたらよいのか? 全身状態が悪いまま移植をしたらおそらく墜落する、こういうケースで「移植をしたらむしろ余生を短くしてしまうかもしれない」と説明することは簡単です。しかしそれでも本人や家族が強く移植を希望された時にどう対処をするのが患者さん、ご家族、そして限られた医療資源を鑑みて最善といえるのか? 答えはおそらく「ケースバイケース」となるでしょう。患者毎に全身状態や原病の病態や予後は異なりますし、患者さんや家族の理解度や治療への思いもみな違うからです。では、適応の可否を決める要因が自分たち医療サイドにはないのか? と考えると、かなり心許なくなります。どの施設のスタッフも最善の医療を提供しようと尽力していると思いますが、例えば病棟を新築し無菌エリアを設置すると真菌感染症が減らせるという報告があるように、現実にはハード面もソフト面も施設間で多少は差があるでしょう。それどころか自分だって、疲れ切っている時に判断を間違えることはあり得るわけですし(<本来あってはならないことですが...)、患者さんの治療方針を決めるという重要局面では絶対やらかさない、とは言い切れない訳です。

そんな風に考えだすと今の自分の立場は、「しっかりとした環境整備を行い、スタッフを働きやすくして、良い仕事をしてもらえるようにする」、このことが目の前にいる患者さんへの最善の医療の提供につながり、そして移植適応のハードルすらも少し変えるのではないかと、とも思うのです。

今年度、金沢大学附属病院は造血幹細胞移植推進拠点病院に選定されました。北陸ブロック代表です。私ごときが「全国の施設の移植医療レベルを引き上げよう」などと申し上げるのはおこがましいのですが、まずは北陸地方の各移植施設の先生方、そして移植を行っていない血液学会教育施設の先生方と連携を深め、移植が必要な患者さんに最善の移植を行う、そして少しでも移植レベル向上につながるような仕事をしていきたい、と思う今日この頃です。

今回は福井大学病院血液・腫瘍内科の細野奈穂子先生にバトンをお渡ししたいと思います。

### 次号予告

今回は、福井大学病院血液・腫瘍内科 細野 奈穂子 先生です!

## 各種委員会からのお知らせ

### 【社保委員会】

- 診療報酬体系の妥当性を検証する。
- 保険承認薬や検査の保険外使用に関して、その妥当性を検討する。

などが、具体的な活動になります。造血幹細胞移植医療は、診療報酬体系で、必ずしも正当に評価されているとは言えない状況です。保険適用のない薬剤が、長年使用されています。さらに、移植に関する薬剤は、対象患者数が少ないため、海外で標準的に使用されるが、わが国では使用できない、状況が存在します。社保委員会は、我々の医療の適正な診療報酬体系での評価、正当な保険適用の獲得、新規薬剤の迅速な導入、を目指して活動する所存です。会員の皆様からの、ご意見をお待ちしております。

委員長 長藤 宏司

### 【造血幹細胞移植患者手帳作成委員会】

#### 《造血細胞移植患者手帳の運用状況についての実態調査》

造血細胞移植患者手帳は、造血細胞移植患者が移植施設以外の一般の医療機関の受診や会社の健康診断の際に、医療情報を共有し、生活習慣病予防、がんの早期発見、ワクチン接種など、移植後健康管理のポイントを明らかにして、移植後の長期的な経過観察や健康管理が円滑に行えるように作成され、2017年から利用されています。利用開始に際して、厚生科学審議会において実際に利用した患者や医療機関へのアンケート調査を行い、手帳の運用状況の把握とともに、今後の改訂の必要性などを検討していくこととなっており、アンケート調査を実施することとなりました。ご協力宜しく申し上げます。

委員長 日野 雅之

### 【Cellular Therapy委員会】

2020年12月のJSHCT理事会にて、Cellular Therapy Registry 委員会はCellular Therapy委員会と改名し、活動を継続することとなりました。Registryに関しては、これまで通り日本再生医療学会が構築した再生医療等製品患者登録システムとの連携を担います。しかし、この委員会の役割は、単にその使用状況およびその安全性情報を適切に把握することだけではありません。これから臨床現場に導入される様々な血液免疫細胞を用いた細胞治療に関して、その実臨床での治療戦略上への位置づけ、細胞治療を施行する施設及び細胞採取の基準などについて領域横断的に検討を加え、細胞治療を必要とする患者さんが、適切な時期に治療を安全に受けられる体制の構築をめざして活動していきます。

委員長：岡本 真一郎 委員：熱田 由子

### 一般社団法人日本造血細胞移植学会 事務局

名古屋市東区大幸南1-1-20 名古屋大学医学部内 (〒461-0047)

Tel: 052-719-1824 Fax: 052-719-1828 E-mail: jshct\_office@jshct.com <http://www.jshct.com>